

■実践研究

グローバル化した都市空間の認識形成をめざす 小学校社会科オリンピック学習の実践学的検討

—第6学年「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」の場合—

大矢 幸久*
佐藤 克士**

Key Words：グローバル化した都市空間、小学校社会科、オリンピック学習、授業実践、授業分析

I. はじめに

2017年告示小学校学習指導要領において、グローバル化社会に対応できる資質・能力の育成が社会科の教科目標として位置づけられるとともに、教育内容の改善・充実事項としても明記された(文部科学省、2018)。筆者らは、このような要請を踏まえ、小学校社会科では、グローバル化社会に対応できる資質・能力を育成するために、どのような論理に基づき授業を構想すればよいのだろうか、という問題意識のもと、オリンピック研究の成果を組み込んだ授業モデルの開発と総括的評価による量的分析を行った(大矢・佐藤、2022)。ここでは、授業モデルを開発するにあたり、まず2000年代以降のオリンピックを対象とした学術研究において蓄積された成果(主に社会諸科学)から法則性や概念などにあたる知識を抽出・整理し、社会科オリンピック学習に求められる内容的枠組みを提示した。次に、その成果をもとに2017年告示小学校学習指導要領に準拠する小学校社会科検定教科書の記述内容を分析することを通して、検定教科書に基づく社会科オリンピック学習の特質と課題を明らかにした。そして、社会科教育の目標に寄与する授業設計の視点に基づき、小学校社会科オリンピック学習「東京オリンピック・パラリンピック2020と私たち」(第6学年)の授業モデルを開発した。開発した授業モデルでは、「グローバル・シティにおけるオリンピック開催の要因を経済的視点から認識する段階」、「オリンピックによる正負の影響を立場の違いから認識する段階」、「持続可能な生活空間の実現に向けた都市空間のあり方について提案する段階」という3つの段階を経て、グローバル化した都市空間の認識形成をめざす授業構成とした。

本稿では、既に開発した授業モデルの有効性について、検証授業における子供の意見文および単元終了時に実施したパフォーマンス評価の質的分析を通して明らかにすることを目的とする。

II. 単元の概要

筆者らは、開発した授業モデル(大矢・佐藤、2022)において、獲得させたい知識を岩田(2001)の知識論に基づき下記のように設定した。これらの知識は、近年のオリンピック研究の成果をもとに精査し、子供の学習前の認識状態(プレテストの分析結果)を踏まえて設定したものである。

【概念的知識A】：国際社会の中で政治的、経済的な影響力を持つグローバル・シティがメガ・イベントであるオリンピック開催を必要とするのは、脱工業化社会における都市戦略に対応した大規模な都市づくりがめざされているからである。

*学習院初等科

**武蔵野大学

【概念的知識B】：グローバル・シティにおいてオリンピック開催に伴う大規模な都市づくりに対抗する動きが生じるのは、オリンピックやそれに伴う都市再開発による立場の違いによって正負の影響がもたらされるからである。

【規範的知識】：グローバル・シティにおいてオリンピックを通して持続可能な生活空間を創るためには、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性を両立させる都市政策を行う必要がある。

また、上記の知識の獲得をめざし、単元全体を「グローバル・シティにおけるオリンピック開催の要因を経済的視点から認識する段階」、「オリンピックによる正負の影響を立場の違いから認識する段階」、「持続可能な生活空間の実現に向けた都市空間のあり方について提案する段階」の3段階で構成した(第1表)。

第一次は、「グローバル・シティにおけるオリンピック開催の要因を経済的視点から認識する段階」である。この段階で【概念的知識A】の獲得をめざす内容構成とした。第1時では、単元を貫くパフォーマンス課題「今年に延期された東京2020大会の開催をどうすべきかを考えよう」を提示し、学習の見通しを持たせる展開とした。第2～3時では、「なぜ、オリンピックは世界最大のスポーツの祭典と呼ばれるようになったのだろうか」と問い、オリンピックの規模拡大・発展が、グローバル化と情報化、商業主義化に起因することを理解させる展開とした(【説明的知識A-1】)。第4時では、ロンドンを事例に、「なぜ、グローバル・シティは、二度目・三度目のオリンピック開催をめざすのだろうか」と問い、開催都市や開催国、ディベロッパ等が、オリンピックを契機として社会資本整備や都市再開発、プロモーションなどを行うことで、様々な立場への経済的な恩恵、経済活性化、グローバル都市化や都市間競争への対応などを企図していることを理解させる展開とした(【説明的知識A-2】)。

第二次は、「オリンピックによる正負の影響を異なるスケール間や立場の違いから認識する段階」である。この段階で【概念的知識B】の獲得をめざす内容構成とした。具体的に第5時では、「東京都が2020年オリンピック・パラリンピックの招致が決定したとき、多くの人々が喜んだのはなぜだろうか」と問い、ロンドンオリンピックにおける開催都市への影響の分析を踏まえ、東京オリンピックやそれに伴う都市再開発によりもたらされる正の影響(経済効果、都市間競争への影響等)を理解させる展開とした。第6時では、「なぜ、東京オリンピック2020の開催に反対する人々がいるのだろうか」と問い、オリンピックやそれに伴う都市再開発により負の影響(景観の阻害、地域住民のライフスタイルへの負の影響、交通渋滞や交通妨害など)がもたらされることを理解させる展開とした(【説明的知識B-1】)。第7～8時では、「なぜ、新国立競技場の建設が大きな論争になったのだろうか」と問い、オリンピックの象徴的な建物であるオリンピックのメインスタジアム(新国立競技場)の建設において、ザハ・ハディド氏設計のデザインやその費用負担などで立場による意見の相違が生じ、社会的な論争問題へと発展したことに気付かせる展開とした(【説明的知識B-2】)。

第三次は、「持続可能な生活空間の実現に向けた都市空間のあり方について提案する段階」である。この段階で【規範的知識】の獲得をめざす内容構成とした。第9時では、「なぜ、新国立競技場のデザインが隈研吾氏の案になったのだろうか」と問い、隈研吾氏設計の新国立競技場を事例に、オリンピック開催によって生じる負の影響を最小化し、正の影響を最大化するための合意形成のあり方について検討させる展開とした。そして第10～11時は、「新国立競技場建設問題での論争をふまえると、新型コロナウイルス感染症拡大により2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック

2020をどうするべきだろうか」と問い、これまで単元を通して獲得してきた知識をもとに、COVID-19拡大により2021年に延期された東京オリンピックの開催是非について検討させる展開とした。ここでは、東京都が持続可能な生活空間を維持できるように、正の影響を最大化し、負の影響を最小化できる方策について留保条件付きの価値判断を行わせ、【規範的知識】の獲得をめざす展開とした。

第1表 授業単元の概要（全11時間）

次	・主な学習活動	獲得させたい知識
一 （1） （4時）	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫くパフォーマンス課題（今年開催予定の東京2020大会の開催をどうするべきかを考える）を把握する。 ・オリンピックの概要（理念や実施内容、開催費用）を調べる。 ・オリンピックが“世界最大のスポーツの祭典”と呼ばれるようになった理由をグローバル化、情報化、商業主義化から考える。 ・夏季オリンピックが開催された都市について調べる。 ・グローバル・シティが二度目・三度目のオリンピック開催をめざす理由を都市間競争や都市再開発、都市プロモーションなど経済的な観点から考える。 	<p>【概念的知識A】</p> <p>グローバル・シティがメガ・イベントであるオリンピック開催を必要とするのは、ポスト・フォーデイズムにおける都市戦略に対応した大規模な都市空間の再編がめざされているからである。</p>
二 （5） （8時）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック開催によりもたらされる正の影響とその影響を受ける立場を調べる。 ・東京オリンピック開催を契機とした都市再開発が行われている理由について考える。 ・東京オリンピック開催によりもたらされる負の影響とその影響を受ける立場を調べる。 ・ザハ氏の新国立競技場デザイン案の特徴とそれが選定された理由について、その決定によりもたらされる様々な立場への影響を踏まえて考える。 ・ザハ氏の新国立競技場デザイン案が撤回された理由について、その決定がもたらす様々な立場への影響を踏まえて考える。 	<p>【概念的知識B】</p> <p>グローバル・シティにおいてオリンピック開催に伴う大規模な都市空間の再編に対抗する動きが生じるのは、オリンピックやそれに伴う都市再開発によりスケールや立場の違いによって正負の影響がもたらされるからである。</p>
三 （9） （11時）	<ul style="list-style-type: none"> ・隈氏の新国立競技場デザイン案に最終決定された理由について、その決定によりもたらされる様々な立場への影響を踏まえて考える。 ・ザハ案でも隈案でも負の影響がもたらされる立場を考える。 ・新国立競技場建設問題を踏まえ、オリンピック開催都市として、みんなが幸せに暮らしていくために求められる視点を考える。 ・COVID-19により2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピック2020の開催是非について考える。 ・東京オリンピック・パラリンピック「開催」・「延期」・「中止」の良い影響と良くない影響を立場の違いから考える。またそれぞれの決定によってもたらされる負の影響を軽減させるための東京都の方策について考える。 ・パフォーマンス課題（「東京オリンピック・パラリンピック2020をどうするべきか」を意見文にまとめよう）に取り組む。 	<p>【規範的知識】</p> <p>グローバル・シティにおいてオリンピックを通して持続可能な生活空間を創るためには、都市の競争力問題、社会的統合問題、持続性問題を両立させる都市政策を行う必要がある。</p>

（筆者作成）

Ⅲ. 授業の実際

ここでは、単元の概要に基づき実践した授業の実際について示す。本単元は三次構成で全11時間からなる。筆者（大矢）の勤務校において2021年2～3月に実施した。第2表～第4表に、子供が授業終了後に書いた主な考えを示す。

1. 第一次：グローバル・シティにおけるオリンピック開催の要因を経済的視点から認識する段階

第1時では、2021年に延期された東京オリンピックに関するNHKの世論調査（「東京五輪・パラは開催すべきか」2020年10月・12月・2021年1月）の結果を子供に提示し、その傾向について読み取らせた。子供は、徐々に「開催すべき」の割合が低下し、「中止すべき」「さらに延期すべき」の割合が増加していることを把握した¹⁾。それを踏まえ、単元を貫くパフォーマンス課題（第1図）を提示し、現時点での自分の考えをお互いに発表させた。

単元「東京オリンピック2020と私たち」の学習を通して考える課題

あなたは、東京都知事です。

スイスのローザンヌにあるIOC（国際オリンピック委員会）本部にて、今年に延期された東京オリンピック2020の開催について最終判断する会議が開かれることになりました。

この会議で意見を述べることになった東京都知事であるあなたは、IOCのバッハ会長に対して、開催都市の代表者として、どのような意見を伝えますか。東京オリンピック2020に関わるさまざまな立場の人々や組織への良い影響や良くない影響をふまえて、東京都民や国民の納得が得られるように、東京都知事としての意見をまとめてください。



バッハ会長 東京2020エンブレム

※IOC（国際オリンピック委員会）とは、オリンピック競技大会を運営する国際的組織です。本部はスイスのローザンヌにあります。オリンピック大会およびオリンピックに関係するあらゆる問題を最終的に決定します。

第1図 単元を貫くパフォーマンス課題（筆者作成）

第2時では、はじめ、子供にオリンピックに対するイメージを表出させたところ、「世界中のスポーツ選手が集まり、お互いがフェアプレイで競い合う平和と国際親善の場」、「世界で一番大きなスポーツのイベント」という意見が出された。次に、教師は、こうした子供のオリンピックに対する認識を出発点にして、「なぜ、オリンピックは世界最大のスポーツの祭典と呼ばれるようになったのか」と発問し、オリンピックの拡大・発展の要因について資料をもとに考察させた。具体的には、当初は、欧米の限られた国しか参加しなかったオリンピックが、交通や情報技術、マスメディアの発達を背景に発展・拡大してきたことを資料から読み取らせた。子供は、現在と比べて規模の小さかったヨーロッパ世界のイベントがグローバル化に伴って世界的な規模に拡大・発展していったことを捉えていた（記述1、2）。また、オリンピックを簡単には中止にできない背景をオリンピックの規模の大きさに関連付けて考えていた（記述3）。

第3時では、まず、子供にオリンピックを開催するためにかかる費用の総額について予想させ、実際の費用について資料をもとに把握させた。次に、開催費用は開催都市、開催国、国際オリンピック委員会が負担していること、開催都市と開催国はその費用を税金から賄っていることを把握させた上で、国際オリンピック委員会の収入源について資料から調べさせた。スポンサー料やテレビ放映権料が収入の大きな割合を占めているという事実から、「なぜ、オリンピックに企業やテレビ局が多額のスポンサー料やテレビ放映権料を支払うのだろうか」と発問し、企業がオリンピックに出資することのメリットについて考察させた。子供は、オリンピックの商業的な側面やグローバル化したオリンピックと企業活動との関わり、企業のメリット、納税とオリンピックの関わりなどを捉えていた（記述4、5）。また、その点を踏まえ、新型コロナウイルス拡大と開催都市や企業への経済的な負の影響とを関連付けて思考していた（記述6、7、8）。

第4時では、まず、近年開催された夏季オリンピック開催都市（ロンドン・リオ・東京）と今後開催される予定の都市（パリ・ロサンゼルス）の特徴について話し合わせた。ここでは、二度目、三度目の開催となる都市が多いこと、世界的に影響力のある「グローバル・シティ」と呼ばれる大都市が多いことを把握させた。そして、「なぜ、グローバル・シティは二度目、三度目のオリンピック開催を目指すのだろうか」と発問し、オリンピック後に「世界都市ランキング」²⁾で1位となったロンドンを事例に考察させた。具体的には、ロンドンオリンピック後に英国政府より発表された報告書をもとにオリンピック開催によりもたらされた正の影響（オリンピック・レガシー）について分析させ、グローバル・シティにおけるオリンピック開催の意義について経済的・社会的な観点から考察させた。子供は、東ロンドンの都市再開発の実態や観光業の発展、労働雇用者数の増加などの資料をもとに話し合い、オリンピックを契機に開催都市や開催国に経済的な恩恵がもたらされたことを捉えていた（記述9、10）。一方、東京2020年大会に関して、ロンドンのような恩恵を東京は得られないと考えた意見や、経済的なメリットを考慮して開催すべきとの意見が出された（記述11、12）。ロンドンを事例にして、東京オリンピック開催について経済的・社会的な観点から検討している子供の姿が見られた。

第2表 授業展開における子供の主な意見（第一次）

時	番号	記述
2	1	今では有名なオリンピックでも最初はとても小さな大会だったとは思わなかったのが驚きました。
	2	オリンピックが世界最大のスポーツの祭典になったのは、世界の技術（交通の発展）が深く関わっているのだと思いました。
	3	今オリンピックが開催できるかわからない時期だけでも、オリンピックの歴史を学び、どうしても中止を決定できない理由が何となくわかった気がします。そして中止よりもまだ延期の方に思いが傾きました。
3	4	オリンピックは有名会社をスポンサーにすることによって世界最大のスポーツの祭典になったのだと思う。
	5	スポンサーがIOCにお金をはらってIOCが得するし、広告を使ってスポンサーも得する。このしくみがあってオリンピックが成り立っているのだなと思いました。
	6	何兆ものたくさんのお金がオリンピックに使われていることは知りませんでした。税金もとてもつかわれているので私たちも他人事とは思わずに東京オリンピックをどうすべきか考え、意見を持つことが大切なのかなと思います。

3	7	東京オリンピックでは、もう放映権料などをしはらっているのか気になる。もしもうはらっていなければ、オリンピック組織委員会が大きな赤字になっている可能性大。
	8	今回もしオリンピックが中止になったらスポンサーにとってのメリットがなくなるようなものだと思います。だから、1年延ばしとかになるのだと思います。もし、これがスポンサーなどがなかったらもう少し楽に決められそうな気がします。でも、3兆以上かかるからやった方がいいと思う人がいるのもわかります。
4	9	ぼくは今までオリンピックとは人々をスポーツで楽しませるだけの大会だと思っていました。でも今回の学習を通して、開催地に大きな経済発展をもたらすことを学びました。だから、世界の都市が自国開催を目指して立候補するのもわかります。
	10	ロンドンで三回目のオリンピックを開催したことでここまで成長できたので、日本も二回目のオリンピックを開催して成長してほしいです。
	11	やはりオリンピックの開催はとても良い経済効果が期待されることがわかりました。ですが、今回の東京オリンピックはそうはいかないと思います。なぜならコロナウイルスの影響で外国人は日本に来る人数が制限されるはずなので。
	12	オリンピック後に残った「レガシー」がとても多く、その後の経済発展に役立てられる⇒だからやはり東京2020は開催すべきなのかもしれない…。

(筆者作成)

2. 第二次：オリンピックによる正負の影響を立場の違いから認識する段階

第5時では、前時で学習した内容（グローバル・シティにおけるオリンピック開催の意義）を踏まえ、東京都が大会招致をめざした理由について考察させた。具体的には、まず前時の学習内容を振り返った後、「通常開催の場合、東京オリンピック・パラリンピック2020の準備・開催により、どのような立場の人に良い影響をもたらすのだろうか」と問いかけ、オリンピック開催に伴う準備や事業の例として「各競技場・選手村を建設する」、「約1か月間のオリンピック・パラリンピック大会を安全に問題なく行う」、「たくさんの大会参加者・観戦者が東京を訪れる」、「交通アクセス（鉄道・道路、バリアフリー化）を整備する」、「全世界にメディアを通してオリンピック・パラリンピックの熱戦や東京の様子が報道される」といった事象を提示し、考えさせた。子供からは、「たった1回のオリ・パラがあるだけで、たくさんの良い影響をもたらされる」、「オリンピックにより、たくさんの企業・立場の人に経済的な利益をもたらされる」、「様々な企業に良い影響をもたらし、たくさん仕事ができる。無職の人がいなくなり、みんな幸せになる」、「グローバル・シティとしてさらに成長できる」といった意見が出された。次に、ロンドンオリンピックでの東ロンドン地区再開発を想起させ、「東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせて、東京ではどのようなまちづくりが進められているのだろうか」と問いかけ、東京オリンピックを契機とした都市再開発の目的や意義について資料をもとに考察させた。具体的には、東京オリンピックのレガシー（東京都オリンピック・パラリンピック準備局、2015）に位置付けられている中央区晴海のオリンピック選手村と港区虎ノ門・麻布台の都市再開発事業の2事例を取り上げ、都市再開発計画に関するパンフレットやホームページなどから、そこでめざされているビジョン（持続可能な環境先進都市や世界都市間競争を勝ち抜くための国際金融都市の実現など）やプランニングの特徴を読み取らせた。そして、まちづくりを視点にして、グローバル・シティである東京都でのオリンピック開催の目的について考察させた。子供は、オリンピック招致・開催の目的が、都市の国際的地位を高めさせること、誰もが住みやすく豊かなグローバル・シティへとさらに成長させること、東京や日本の経済・財政を

活性化・安定化させることにあると捉えていた（記述 13、14）。オリンピック後の都市変容を楽しむ一方で、都市景観が大きく変化することへの戸惑いや、コロナ禍により当初の計画が達成できなくなることへの懸念などの意見が出された（記述 15、16、17）。

第6時は、まず、東京オリンピック開催決定前の2013年におけるオリンピック招致についての世論調査の結果を示し、オリンピック開催に反対する人々が3割ほどいたという事実を把握させた。その上で、「なぜ、オリンピック開催に反対する人々がいるのだろうか」という問いを投げかけ、予想させた。次に、これまでのオリンピック開催都市で生じた問題を調べ、どのような立場の人々に負の影響がもたらされるのかを考察した。具体的には、「A：ホテルの宿泊費・家賃の高騰」、「B：環境への悪影響」、「C：競技施設のホワイトエレファント化」、「D：交通渋滞・観光公害」、「E：巨額の財政負担」、「F：住民の立ち退き」など、これまでのオリンピック開催において生じた負の影響に関わる資料を提示した上で、東京オリンピックで想定される影響やその影響を受ける立場を考えさせた。最後に、学習問題に対する答えについてグループ内で検討させた後、自分の考えをワークシートにまとめさせた。例えば、「経済が良くなる一方で、借金の返済や施設の維持費などでオリンピック後にお金がかかり、施設の建設で森林伐採や野生生物への悪影響による環境破壊が起きてしまい、観光客による観光公害、社会的に弱い立場の人が追いやられ、経済格差が広がってしまうなど、良くない影響もたくさんあるから」とオリンピックによって生じる可能性のある影響について、様々な立場を踏まえ記述している子供が多数確認された（記述 18、19）。これらの記述から推測するに、本時の学習により、オリンピックに対する既存の子供の認識を大きく揺さぶることになったと判断できる。具体的には、オリンピックの陰で負の影響を受ける立場の人々がいることや、税負担が増し財政を圧迫すること等について理解したことが確認できる（記述 20、21）。また、新型コロナと関連付けた意見や、どうしたら負の影響を小さくすればよいかを考えた意見も見られた（記述 22、23）。

第7時では、はじめに、前時までの学習の振り返りを行い、オリンピックの開催により良い影響を受ける立場と良くない影響を受ける立場を整理した上で、教師から「それぞれの立場がみんな幸せになるためには、どのように調整していけばよいだろうか」と問いかけた。続いて、この問題を考えていくために有効な視角を与えると教師が判断したオリンピック関連の事例として、既に社会的に大きな論争となり、その後に合意形成が図られた新国立競技場建設問題の概要を子供に提示し、「なぜ、新国立競技場建設問題が大きな論争となり、その後、どのように問題が解決されたのだろうか」と問いかけた。まず、ザハ・ハディド氏がデザインした新国立競技場の完成予想図と完成した新国立競技場の写真を提示し、どちらが東京オリンピックのメインスタジアムとしてふさわしいか問いかけた。次に、「なぜ、ザハ・ハディド氏のデザインが新国立競技場のデザインコンペで選ばれたのだろうか」と問い、ザハ氏のこれまでの建築作品やその特徴、コンペ公募メッセージ、ザハ氏デザインの新国立競技場の特徴やコンセプト、審査員の評価などの資料から考察した。子供から「最先端で最大規模の競技場でグローバル・シティとして世界にアピールできるから」、「世界的に活躍している建築家のユニークなデザインで人々を圧倒させることができるから」、「これまでにないデザインで、新しい日本を見せることができるから」といった意見が出された。次に、ザハ氏のデザインがそのまま採用された場合、どのような良い影響がもたらされるかを観光業、政府や東京都庁、東京のグローバル企業、建設業・不動産業の4つの立場から考えさせた。子供からは、世界的に有名な建築家による近未来的で斬新なデザインにより東京や日本のイメージを一新するシン

ボルとなること、グローバル・シティとしての魅力を高め世界から注目されることで経済活性化や国際競争力向上、都や国の税収増加が見込めること、大会後も様々なイベントに活用できるように多目的で使えることなどのメリットが出された（記述 24、25、26）。一方、前時の学習で得たオリンピックの負の影響をふまえ、景観の破壊や多額の財政負担など、ザハ案を批判的に分析する意見も出された（記述 27、28）。

第8時では、まず、2015年にザハ案が政府により白紙撤回された概要を把握させた上で、「なぜ、ザハ案は取り止めとなったのだろうか」と発問し、予想させた。次に、当時の新聞やテレビニュースなどの資料から、財政上の負担が大きいこと、巨大すぎること、明治神宮外苑の景観や歴史性に合わないことを争点としてザハ案建設反対の世論が高まった事実を捉えさせた。次に、ザハ氏がデザインした新国立競技場が建てられた場合に生じると予想される負の影響を「東京都民」、「周辺に住む人」、「歴史研究者」の立場から考察させた。最後に、ザハ案が白紙撤回された要因について話し合わせた後、自分の考えをワークシートにまとめさせた。例えば、「外苑は明治天皇のために作ったのに、そこに建てるにはおかしい。こんな巨大な建物を設置すると、オリンピックの時はにぎわうかもしれないけれど、もしその使い道がないと、ただの無用の長物で、近くの自然をこわしてしまったり、近所に住んでいる人の景観や青い空をうばってしまう。また、お金がかかると、そのお金は国民の税金から。良いことだらけでなく、悪いことだらけだから」のように、歴史性や環境、景観、財政、維持費負担といった観点から考察した記述が見られた（記述 29、30）。一方、立場によってはザハ案のメリットが大きいと考える意見、どちらかを選ぶのは難しいという意見も出された（記述 31、32、33）。

第3表 授業展開における子供の主な考え（第二次）

時	番号	記述
5	13	こんなにも良い影響があるとは知らなかった。東京もロンドンのように豊かな都市になって、どんどん成長し、経済のランキングでも1位になってほしいです。
	14	オリンピックは「平和の祭典」だけでなく「街を進化させ豊かにする祭典」でもあるなと思いました。
	15	新しい街をつくるのはとても楽しみです。歴史ある古い家や街並みをなくしてしまうのは少し残念でした。新しくするのは良いですが、日本の歴史が分かる街も観光客に人気が出るのではないかと思います。
	16	これで開催しなければ国民が重い税を持つことになると思う。
	17	オリンピックのおかげで大規模な経済効果などが見込めるはずだったのに、コロナのせいでどうなるかが分からない状況になり、そのときにオリンピックを開催する日本は不運だなと思いました。
6	18	オリンピックはみんな楽しむべきなので、今のままではいけないと思う。どの人もオリンピックが楽しみだと思っていたので、反対している人もいると知りとても驚いた。
	19	前の授業でオリンピックのメリットはたくさんあるんだなと思ったけれどデメリットも意外とたくさんあってびっくりしました。オリンピックを開催するかどうか段々意見が変わってきました。
	20	良い影響を受ける人は多いですが、それと同じくらい良くない影響を受ける人も多くてびっくりしました。

6	21	オリンピックはかけごとみたいだと思いました。オリンピックのために施設などにお金を使いすぎると、その施設が多すぎたり、今回みたいに中止になる可能性がでてきたら経済的にも国は落ちる。逆に施設などにお金をすぎてもその施設がオリンピックが終わっても人気だったら経済的に国が安定する。
	22	ふつうの開催でもこんなに沢山の良くない影響がもたらされるのかと驚きました。コロナウィルスも考えなければならぬ東京オリンピックがどうなってしまうのでしょうか。また住民が大きな影響を受けるようなので慎重に考えなければならぬと思いました。
	23	ぼくはオリンピックをすることはとても嬉しいことかと思っていたけれど、こんな悪い影響もあるんだなと思った。やはりどの立場の人にも良い影響になるようにすることが大事だと思います。
7	24	ザハ案はデザインも近未来的でかっこよく、新しい日本のシンボルになれるし、機能面でも優れていると思います。オリンピック後のことも考えられていて過去の大会のように、後で無駄にならないようなアイデアも盛り込まれていました。良い影響がもたらされる立場の人々もたくさんいるのにこの案がなぜ変更になってしまったのか早く知りたいです
	25	私はザハさんのデザインが選ばれる理由の視点として観光業や建設業などの売り上げが上がりたり日本のイメージアップのためなどで、このデザインがふさわしかったからだと思いました。
	26	東京の新しいシンボルとなれば、日本にたくさん人が来るから、いろんな立場の人に利益が見込める。いろんな施設として使えるのは良いことだと思う。
	27	競技場のデザインがもともと違っていたとは知らなかった。ザハさんの案は街の中でうきそうだしUFOのようで少しこわい。隈さんのはなじんでいるし自然に囲まれていて日本らしいと思った。また、ザハ案で良い影響を受ける人がいるのなら悪い影響を受ける人や隈案でも良い悪いがあると思うから、それが気になった。
	28	私はザハさんの案に反対です。なぜなら国民の税金を1300億も使って建てるのであれば、まずしい人や今でいうコロナ対策費に使ってほしいと思った。
8	29	やはり近くに住んでいる人の気持ちになってみると、こんな大きな建物があったら少しこわいし、客観的にみても歴史的じゃないなと思うし、みんなが反対する理由がよく分かりました。
	30	私的には、ザハさんの案もかっこ良いと思いますが、調べていくうちに、お金もけっこうかかるし、たしかに景観もこわしてしまうなと思いました。私は近くに住んでいて、家から神宮の森まで歩いて行けるのですが、確かに神宮の森にこの建物ができたら、森にUFOが降りてきたみたいで変だなと思いました。また、神宮の森やイチョウ並木を散歩して楽しんでいる人もたくさんいるので、そこにあの大きな競技場ができたら、少し迷惑に思う人がいるなと思いました。
	31	オリンピックをきっかけとして景気を良くし、国を発展させていくことは良いことであるが、オリンピックの準備の一つである新国立競技場の建設に多額のお金を使って他のことにお金が使えなくなり、国があまり発展しないのかも。
	32	ザハさんの案も、近代的でいいと思いますが、費用がかかりすぎて、環境に悪いことが分かります。隈さんの案はザハ案より小さくてシンプルです。私はデザインだったらザハさん派ですが、環境や費用については、隈さん派です。どちらか選ばせません。
	33	こういう大きな課題やプロジェクトは全員の立場から納得を得ることはとても難しいことがわかった。

(筆者作成)

3. 第三次：持続可能な生活空間の実現に向けた都市空間のあり方について提案する段階

第9時では、新国立競技場建設問題の最終的な着地点として隈研吾氏のデザインが採用された経緯を説明した上で、「なぜ、新国立競技場のデザインが隈研吾氏の案になったのだろうか」という問いを設定して考察させた。隈研吾氏デザインのコンセプトや特徴、隈研吾氏のこれまでの建築作品やその特徴などを資料から読み取らせ、隈案が、前時で学習したザハ案に関する論争の争点であった財政や環境、景観・歴史性の問題に対応したデザインであることを把握させた。一方で、ザハ案でも隈案でも負の影響を受ける立場の人々がいることを提示し、国立競技場の敷地拡張に伴い立ち退きを強いられた都営住宅の住民、住環境の悪化が懸念されるスタジアムの周辺住民について資料をもとに調べさせた。その上で、「オリンピック開催都市の東京都として、誰もが幸せに暮らしていくためにはどのような政策を行うべきか」を問いかけ、政策を決定する際に考慮しなければならない視点について、これまでの学習を踏まえて話し合わせた。話し合いでは、①「グローバル・シティとして、東京の魅力・競争力を保ち、経済発展させることができるか（経済的競争力）」、②「生活環境を保ちながら、限られた財政のなかで、持続可能な都市をつくることができるのか（環境的持続性）」、③「さまざまな立場の人たちへの良くない影響を小さくし、良い影響を大きくすることができるか（社会的統合）」という3つの視点に基づく議論が展開し、改めてこれら3つの視点を組み込んだ都市政策を行う必要性を確認した。授業後の子供の感想として、新国立競技場に対する見方の変化（記述34・35）、様々な立場を踏まえて合意形成を図ることの難しさ（記述36・37・38）等に関わる記述が見られた。

第10時は、単元冒頭に提示したパフォーマンス課題（第1図）を提示し、前時で導出した3つの視点を活用して、持続可能な都市空間の形成に向けた方策を考えさせる展開とした。具体的には、新型コロナウイルス感染症拡大により2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催判断や必要となる対策について、「経済的競争力」、「環境的持続性」、「社会的統合」の3つの視点を踏まえ検討させた。はじめに、2021年2月の時点で想定されるシナリオ（マスコミなどで報道されているパターン）を5つ（A：通常開催、B：無観客による通常開催、C：50%の観客数と大会規模の縮小、D：延期、E：中止）提示し、それぞれのシナリオにおける「東京大会のスポンサー企業やテレビ局」、「東京都・国」、「東京都民（納税者・生活者）」、「観光、飲食、サービスなどに関わる会社」、「建設、不動産、都市開発などに関わる会社」、「医療従事者」の立場にもたらされる正負の影響について新聞記事をもとにグループで分析・検討させ、ワークシートに評価（◎とても良い、○良い、-どちらでもない、△良い面・良くない面両方ある、×良くない、××とても良くない）を記入させた。そして、その評価をもとに、どのシナリオが最も「経済的競争力」、「環境的持続性」、「社会的統合」の3つの視点をよりよく実現できるかを吟味させた。次に、①通常開催の場合、②中止の場合を想定し、それぞれの場合、様々な立場の人々に具体的にどのような良くない影響が生じるか、また、それに対して東京都はどのような対策を取るべきかを話し合った。子供から、開催した場合は、医療従事者や都民、周辺住民に良くない影響がもたらされ、それを軽減させるために「感染症対策をしっかりと行う」、「ワクチンを打った人のみ参加できる」、「PCR検査をしっかりと行う」、「検温・消毒の徹底」といった対策が重要になるという意見が出された。また中止の場合は、選手、東京都、都民、観戦者、スポンサー、テレビ局、観光業などに良くない影響がもたらされ、それを軽減させるためには、「補助金や給付金を出す」、「GOTOキャンペーンのようなイベントを実施する」、「オンラインで開催する」などの意見が出された。子供は、単元を通し

て学習してきたことや前時で導出した3つの視点を手がかりに、様々な立場への正負の影響を考慮しながら、東京都が取るべき政策を吟味・検討していた。授業後の子供の感想として、どのようなシナリオにおいても負の影響を受ける立場がいることや国民の多くの合意を得て政策を決定するのはとても難しいことを書いた記述（記述 39、40、41）、なるべく負の影響が小さくなる政策を選択している記述（記述 42、43、44）などが見られた。

第11時では、単元のまとめとしてパフォーマンス課題について、改めて意見文を作成させた(2021年2月19日に実施)。

第4表 授業展開における子供の主な考え（第三次）

時	番号	記述
9	34	最初は隈案の競技場は地味だと思ったけれど、くわしく見てみると低コストで設備も整っていて、外見も自然な感じで悪くなかったので隈案で良かったと思います。
	35	私は最初、新国立競技場のことなんか自分には関係ないと思っていましたが、勉強を進めていくにつれ、東京都民である私にとっても関わりがあるんだなと思いました。
	36	なかなか全ての立場の人が満足するというのは難しいですが、それでも何か方法があると思うので、あきらめずにみんなで考えてほしいと思いました。
	37	新国立競技場のせいで起こる悪いこともいろいろあって、みんなが全員とはとても難しい問題でした。1つにすると、多数は利益があってもどこかでは小さいけれど損があります、とても難しいけど、とても必要なことなので、とても考えさせられました。
	38	ザハさんと隈さんのデザインを足して2で割っても「だれもが幸せ」にはならないと思います。それで、各立場の人々の不満を集めて、1つ1つ良い影響に変えるまではいかなければ、「悪い影響を減らす」ことをするためにいいに考えていき、みんなが幸せになる良いレガシーを残せるような対策をもっと深めていくと良いと思います。
10	39	オリンピックを開催しても中止にしても良くない影響があることが分かって、みんなはこれが理由でやんでいるということが分かりました。
	40	このオリンピックを勉強する前は、コロナを拡散させないために中止すべきだと考えていました。しかし今回の学習で、中止は様々な人に悪影響を出すことが分かりました。臨機応変に形自体を変えていくべきと分かりました。
	41	3つの視点を全て理想の形にするのは、実際に難しいと思います。その中でも、いろいろ考えて答えを出す政府は大変だとすごく思いました。30人で8つの案が出たのだから、議員がたくさんいるともっとたくさん案が出るのだと思います。
	42	ぼくは制限をして開催するほうが良いと思います。医療従事者に負担はかかりますが、ふつうに開催するよりは少なく、けれど中止にしてしまうとスポンサーやテレビ局が大損害を受けてしまうからです。
	43	正直、今の状況だと開催は難しいと思う。選手だって、お客さんを入れてやっても声えんがなくてさみしいだろうし、お客さんを入れないで開催すると、国・スポンサーの負担が大きくなってしまいます。私は、日本人の観客のみで50%の案が一番よいと思う。外国人の方には申し訳ないけれど、住民は見られるし、チケット収入も少しあるから。さらに、コロナがおさまった後に海外から「日本のオリンピック会場に行けなかったから見に行こうよ！」と観光面でもメリットがあるから。
	44	ぼくは一番よいシナリオを無観客にしました。加点方式でやってみると、Bが圧倒的に良くない影響が少なかったです。医療従事者だけが××でしたが、それ以外はほぼ○でした。点数だけ見れば一番良いかもしれませんが、医療従事者への負担が大きいと思いました。

(筆者作成)

IV. 授業実践の分析とその評価

1. パフォーマンス評価の概要

単元終末に実施した意見文作成によるパフォーマンス評価の概要について述べる。本単元で示したパフォーマンス課題は、開催都市の代表である東京都知事の立場に立ち、オリンピックを主催する国際オリンピック委員会に向けて、東京オリンピックの開催是非についての東京都の意見をバツハ会長に伝えるという課題である。問題用紙には、単元冒頭に提示したパフォーマンス課題（第1図）と同様のものを提示した上で、具体的に盛り込むべき要件や形式も示した（第2図）。パフォーマンス課題の問題用紙に、意見文の要件（第2図中「意見文のまとめ方」）を示した理由は、指導者にとっては、評価の観点を明確化し、本単元における子供の知識獲得状況を把握しやすくさせることを企図している。また、形式（第2図中「以下は例文です。参考にしましょう」）を示した理由は、子供にとっては、意見文を書く経験が少ないことを踏まえて、課題の趣旨を明確化させ、学習したことや自分の考えを他者にわかりやすく伝えやすくさせることを企図している³⁾。

※意見文のまとめ方（①～④を盛り込みます）

① 今年の開催をどうするべきか、あなたの考えを書きましょう。
 （例：「通常開催する」、「開催するが無観客とする」、「中止する」、「延期する」など）

② ①のように判断した理由を、学習したことをいかして、2つ以上の視点から書きましょう。

③ ①の判断をした場合に開催都市に関わる立場の人に生じる「良くない影響」を書きましょう。

④ ③であげた「良くない影響」を小さくする対策例を書きましょう。

※以下は例文です。参考にしましょう。

IOC バツハ会長へ

今年に延期された東京オリンピック・パラリンピックは、（ ）したいと考えます。こうすることで開催都市・東京都に關係する多くの立場の人々に良い影響がもたらされると考えます。理由は2つあります。一つ目は（ ）だからです。二つ目は（ ）だからです。三つ目は…

一方、この判断により生じる「良くない影響」として（ ）などが想定されます。これに対して東京都は（ ）などを行い、「良くない影響」がなるべく大きくなならないよう対策を行います。以上が、東京都知事としての意見です。

第2図 パフォーマンス課題における「意見文のまとめ方」（筆者作成）

2. パフォーマンス評価の分析

第5表は、パフォーマンス評価の評価基準とその結果を示したものである。どの観点もAまたはB基準の児童が8～9割に達したことから、グローバル化した都市空間におけるメガ・イベントの意義や影響を経済的競争力、社会的統合、環境的持続性を視点にして吟味し、自分の考えを構築するに至ったと判断できる。しかし、詳細に見ると、①概念的知識Bに関わる評価観点「開催都市に関わる立場の人々に生じる負の影響について説明しているか」では、他と比べて、B評価とC評価の割合が約4割と高かった。また、②規範的知識に関わる評価観点「都市における持続可能な生活空間の創造に向けて、負の影響を最小化する方策を考えているか」では、他と比べて、ややC評価が多くなった。これらの評価に属する子供の記述を詳細に見てみると、①は、開催延期を選択した子供が負の影響について説明する際に、3つの視点のうち、一つのみ、または言及していない解答が多かった。②についても、開催の延期を選択した子供が負の影響を低めるための方策に言及していない解答が多かった。例えば、新型コロナウイルス感染症拡大の防止（環境的持続性）を

理由に挙げて開催延期と判断した児童の記述に、この判断による負の影響（例：グローバル・シティとしてアピールが十分にできない・観光業へ一時的に経済的な打撃を与える）やその影響を低めるための具体的な方策（観光業への支援、財政出動など）が書かれていなかった。

この要因は、オリンピックの開催延期、すなわち時期を遅らせての開催による負の影響を子供が具体的に想起することが困難であったためと考えられる。開催判断に伴う各立場への影響を考察した第10時にて扱ったシナリオは、通常開催と中止の2つのみであった。再延期の上で開催というシナリオについては授業内で扱っていない。そのため、再延期の上で開催という判断を選んだ子供の中で、具体的にどのような負の影響が生じるのか、また、その影響をどのように低めるのかについて想起できない子供もいたと推察される。授業実践時は、新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中、今夏のオリンピック開催も危ぶまれた時期であった。子供や授業者のみならず社会全体も先行きを見通せず混乱した状況の中で、再延期により生じる影響やその対策について、参考となる事例がなく、子供が考える材料に乏しかったといえる。しかしながら、どのような政策判断においても、様々な立場に正負の影響が生じる。変化の激しいグローバル社会において、あらかじめ、想定される多方面へのリスクを洗い出し、それらの負の影響を低めるための方策を構想・判断する力も市民的資質の育成において求められよう。

第5表 パフォーマンス評価の評価基準とその結果

評価の観点と 獲得させたい知識	評価基準	n = 117 人	%
今年のオリンピック開催是非についての判断理由を説明しているか。(概念的知識 A)	A 自分が選択した判断について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点のうち、2つ以上の視点から説明している。	82 人	70%
	B 自分が選択した判断について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点のうち、いずれかの視点から説明している。	29 人	25%
	C 自分が選択した判断について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点を踏まえずに説明している。または、説明していない。	6 人	5%
その判断により開催都市に関わる立場の人々に生じる負の影響について説明しているか。(概念的知識 B)	A 自分が選択した判断による負の影響について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点のうち、2つ以上の視点から立場を踏まえて具体的に記述している。	71 人	61%
	B 自分が選択した判断による負の影響について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点のうち、いずれかの視点から立場を踏まえて具体的に記述している。	35 人	30%
	C 自分が選択した判断による負の影響について、経済的競争力、社会的統合、環境的持続性の視点や具体的な立場を踏まえずに記述している。または記述していない。または、都市空間への影響という論点からずれた記述をしている。	11 人	9%

都市における持続可能な生活空間の創造に向けて、負の影響を最小化する方策を考えているか。(規範的知識)	A	自分が選択した判断に対する負の影響を小さくさせる方策について、具体的に立場やその効果を想定して記述している。	78人	67%
	B	自分が選択した判断に対する負の影響を小さくさせる方策について、記述している。	25人	21%
	C	自分が選択した判断に対する負の影響を小さくさせる方策について、記述していない。または、都市における持続性という論点からずれた記述をしている。	14人	12%

(筆者作成)

以上の意見文およびパフォーマンス評価の分析や授業実践の結果から導出できる授業改善の方策として、グローバル化した都市空間に住まう多様な立場の中から具体的な人物を登場させて、オリンピック開催による正負の影響を実感的に捉えさせる内容構成が想定される。本実践は、グローバル化した都市空間に対してメガ・イベントの開催がどのように影響を与えるかを幅広い立場から捉えさせる学習展開となった。その際、単元の中で取り上げた立場は、「観光業に携わる人」、「観戦者」、「国立競技場周辺の地域住民」、「医療従事者」のように、職業や属性などに基づく抽象的な立場設定に留めたために、それぞれの立場への正負の影響を把握するのが難しい子供もいたと推察される。子供が、様々なシナリオに基づき、ある立場への正負の影響を想起するためには、「観光業に携わるAさん」という個人レベルにまで具体化して提示することが有効であろう。オリンピックに直面する都市住民の一人としての期待や不安、正負の影響などをインタビュー資料などに基づいて把握し、その立場が置かれた社会的な文脈を踏まえて共感的に考えさせるべきであった。

V. 結 論

本研究の目的は、本研究に先立って開発したオリンピック研究の成果を組み込んだ社会科オリンピック学習の授業モデルの有効性について、各時間に書かれた子供の意見文およびパフォーマンス評価による分析を通して明らかにすることであった。具体的には、筆者らが先行する授業モデル開発で設定した知識（【概念的知識A】・【概念的知識B】・【規範的知識】）について、実際の授業実践や意見文、パフォーマンス評価の分析を通して検討した。分析の結果、主にパフォーマンス評価の結果が示すように、概ねどの評価観点においても8割以上の子供がAまたはB基準と判断できる結果が得られた。

今後は、検証授業及び意見文・パフォーマンス評価の分析を踏まえ、導出したこれらの授業改善の方向性に基づき、改善授業モデルを開発し、その有効性を検証していくとともに、上記の評価で用いた指標（問題・基準）についても、改めてその妥当性を検討し、必要に応じて修正を図り、精緻化していくことが課題である。

注

- 1) 2021年1月9日～11日に実施されたNHK世論調査では、2021年に延期され夏の開幕に向け準備が進められている東京オリンピック・パラリンピックについて、「開催すべき」が16%、「中止すべき」が38%、「さらに延期すべき」が39%との結果であった。本実践は、東京都に

2 回目の緊急事態宣言が発令されていた期間（2021 年 1 月 8 日～3 月 21 日）に実施した。2 月 14 日に新型コロナワクチンが国内で認可され、医療従事者への先行接種が開始された時期にあたる。

- 2) 本実践の「世界都市ランキング」は、森記念財団都市戦略研究所（2020）に基づく。
- 3) 岡田（2019）は、意見文の「型」は、書くことが苦手な子供への支援ツールであり、「型」を示すことにより、意図的に反論や反駁する力を伸ばすことができるとともに、「型」はいつか子供自身が「型」から離れて、自分の「型」を創るといふねらいがあることを指摘している。本研究では、この主張を参考にしてパフォーマンス課題に要件や形式を示した。

引用・参考文献

- 岩田一彦（2001）：『社会科固有の授業理論・30 の提言—総合的な学習の時間との関連を明確にするための視点—』明治図書、pp.40-51.
- 大矢幸久・佐藤克士（2022）：オリンピック研究の成果を組み込んだ社会科オリンピック学習の授業開発とその評価—小学校第 6 学年「東京オリンピック・パラリンピック 2020 と私たち」を事例にして—。新地理、70（3）、pp.1-22.
- 岡田泰孝（2019）：「政治的リテラシー」のラーニング・アウトカム評価とその実践的課題—論争問題の意見文をパフォーマンス評価し、その限界を鑑識眼的評価で補う評価方法—。社会科教育研究、136、pp.14-27.
- 東京都オリンピック・パラリンピック準備局（2015）：『2020 年に向けた東京都の取組—大会後のレガシーを見据えて—』東京都オリンピック・パラリンピック準備局総合調整部計画課、86p.
- 森記念財団都市戦略研究所（2020）：『世界の都市総合力ランキング 2020（Global Power City Index 2020）概要版』27p.
- 文部科学省（2018）：『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』日本文教出版、217p.

